

NEWSWEEKの最新号は、裏面のように「尊敬されている日本人100名」の特集である。裏面を楽しんでほしい。しかしこの号には、あなた達にとっての重要な記事が二つあったので、大きく張り付けています。ぜひ丁寧に読んでください。【左】は「中国では激しすぎる塾での受験競争を規制しよう」という政策についての論争です。厳しい塾での学習は、「そもそもお金持ちしか塾に通えないので、貧乏人は不利であり、これでは人々の格差を是正するために存在する中国の様な社会主義国家の存在理由がなくなる」とともに、「伸び伸びと育つべき子供のために良いことはない」という立場から、厳しい塾の規制がなされるという記事ですが、あなたたちはどう思いますか？ 森はこの中国の学習塾への規制には正しい一面があると考えています。しかし筆者はアメリカ的な発想からしか物事が見えていないように森は感じています。【右】は「コロナの危機下にある日本では、オリンピックの開催に否定的な人が多いのにもかかわらず、いったんオリンピックが始まると、多くの国民が熱心にそれを見ようとするのはなぜなのか？このことを「心理学」の立場から述べられているわかりやすい記事です。心理学とはどういう学問か。そして「自分の心の中を調べてみよう」という意識をもって読んでください。学問のすばらしさに感動しますよ。尚、グレン・カールさんはアメリカのCIAの元職員です。つまり世界中をスパイすることが仕事だったわけです。ですから彼の判断はとても正確で、森はNEWSWEEKの中で彼の情報を一番信用しています。

Periscope

CHINA

中国の激しすぎる学習塾規制は誰のため？

中国政府は7月24日、学習塾に関して新たに厳しい規制を設けることを表明した。学習塾などを運営する教育サービス企業は非営利団体にする、試験に備えて週末や休み中に学校の教育課程を教えることは禁止、さらに外国の教育課程を教えることや国外の外国人を雇ってリモート教育を行うことも禁止される。

この規制で、中国の1200億規模の教育産業は大打撃を受けている。英語教育サービス最大手の新东方教育科技の株価は、ニューヨーク株式市場で今年2月には19・68ドルを付けていたが、7月29日の終値で2・21ドルにまで急落した。

デジタルライニングによって欧米の教師の授業を比較的安価で提供してきた企業も、絶望的な方向転換を迫られることになる。今回の規制は、中国政府の巨大IT企業との戦いと同じように見えるかもしれない。

しかしこの規制は、学習塾が都市部の上位中流層の両親と

子供に悪影響を及ぼしているという、中国社会の考え方も反映している。両親にとっては教育費がかさみ、子供たちにとっては精神的負担になっているというものだ。

中国での教育の機会が、「高考」と呼ばれる、全国統一の試験を受けることである。要がある。中国の子供の4分の3は、世帯当たりの可処分所得が平均約2635ドルの農村部で育ち、教育の機会が著しく限定されている。

中国の標準的な政府職員もまた上位中流層の出身であり、受験競争が家庭や子供に及ぼす悪影響を経験している。今回の規制が、詰め込み教育を規制する一方で放課後の趣味や文化的興味を奨励しているのは、おそらくそのためだ。新規制が両親の教育費の負担を減らし、子供のストレスを緩和させるとしたら、少子化問題の改善につながるのではないかと政府は期待している。政府は今年5月に、1世帯で3人までの子供を認める「三人っ子」政策を打ち出したが、それでも子育てにかかる費用は、少子化の強力な要因となっている。政府当局が懸念しているのは、人口減少だけでなく、農村部の貧しい家庭ではなく、裕福な家庭にもっと子供を持つ



規制強化で教育サービス企業の株価は急落(写真は北京の新東方の教室)

一の大学入試試験に全て懸かっている。親たちは、子供の学力を向上させるために年間数千ドルを学習塾に費やすこともある。

こうした教育費を支出できず、比較的低所得層だという点は、考慮しておく必要がある。

喜びを感じられる。内集団に属していると、自尊心や幸福感が高まる。チームと一体化すれば、孤独感や疎外感が弱まり、ポジティブな感情や自尊心が強くなる。

人生とは、自分の地位をめぐり争い続けるものだ。子供は遊び場、スポーツ、学校のクラス、仲間内でヒエラルキーを作る。大人の社会も、階層によって

From Foreign Policy Magazine

Commentary

WHY WE WATCH

コロナ禍の五輪に夢中になる理由

グレン・カール(本誌コラムニスト、元CIA職員)

東京と日本の新型コロナウイルス感染者数は過去最高を記録し続けた。だが、東京五輪の日程に変更はない。競技場は無観客だが、世界中で多くの人々が最高のアスリートによるメダル争いを見入っている。感染力の強いデルタ株の感染が世界で急拡大しているが、アメリカでも大リーグの試合に連日多くの観客が集まっている。

なぜ多くの人がスポーツを見たい、参加したいと思うのか。私たちがウィルスの脅威にも負けず、重量挙げや野球、水泳などに熱中する理由は次の4つだと考えられる。

■幸福感 私たちは自分を独立した1人の個人と思っているが、その認識は間違っている。心理学によれば、人はしばしば自分と「外の世界」を区別できない。誰かや何かと心理的に密接な関係にあるとき、脳はその成功や特徴が自分の肉体に属するの、密接な関係にある別の誰かや何かに属するのかを区別できないことが多い。

スポーツ観戦はこの性質と深く結び付いている。私たちは自分とひびきのスポーツチームや選手、仲間のファンを一体化させ

る。彼らの成功を共有し、文字どおり神経レベルで一体感を抱くのだ。選手たちの経験やスキルは心理的に(または疑似体験として)私たちが自身のもthingになり、それによって私たちは自分以上の存在になる。

■帰属意識 この神経レベルでの他者との融合は、同じ「内集団」の一員であるという強力な帰属意識を生む。人間は社会的動物だ。自分の生存と幸福を、成功したグループの一員であることに依存してきた。例えば家族や部族、そして五輪の日本代表だ。

私たちは本能的に、人を同じグループの一員かどうかで分類する。スポーツは特定のグループに所属するための手っ取り早い手段だ。ファンになれば、単に試合の勝ち負けやファインプレーを見たときよりも、もっと深い



スポーツを見る心理は古代オリンピックも今も変わらない

成り立っている。男性はあらゆる方法で榮譽や誇れる功績を手に入れようとする。ある研究によると、男性のテストステロンの値はチームや味方が勝つと上昇し、負けると下がる。これはゲームの参加者でもファンでも同じだ。

私たちのほとんどは「アルファ雄(群れのリーダー)」にはなれない。しかし、人間は本能的に自分の地位を上げようとする。そのため、私たちは意識的または無意識的にスポーツ界のヒーローと一体化し、彼らの地位や勝利や失敗を疑似体験するのだ。

■性的魅力 私たちは人間を合理的な存在と見なし、社会生活と性生活の間には明確な違いがあると考えている。だが、この認識も誤りだ。私たちがサッカーやテニスのスター選手と自分を一体化させるのは、彼らが注目の的であり、内集団のアルファ雄(つまり群れの中で最も魅力的なリーダーの雄)であるからだ。

少なくとも私たちの潜在意識下では、彼らは繁殖パートナーを選べる雄だ。あらゆる人間の行動の背後には、生き残りたい、子孫を残したいという衝動がある。五輪を含むスポーツの観戦は、本能的な行動に近い。だから危険なウイルスでも、幸福、帰属意識、地位、性的魅力を求める私たちが止められないのだらう。

てほしいと政府は考えている。この規制はまた、中国の外国嫌悪の表れでもある。中国共産党は、イデオロギー教育を特に重視している。外国の教育課程や外国人教師の禁止によって、徐々に広がる外国の影響を抑えることができると期待している。

しかし厳しい規制でも、子供をアイビリーグに通わせたい超富裕層を止めることはできない。個人的に連絡を取ったり、アメリカの口座を使ったりして、外国人教師を探し出すだろう。

問題なのは、中間層の中で個人授業の新たなマーケットができるのではないかと、という点だ。そうならば、受験競争で落ちこぼれないために必要な教育費は、下がるどころか上がってしまう。

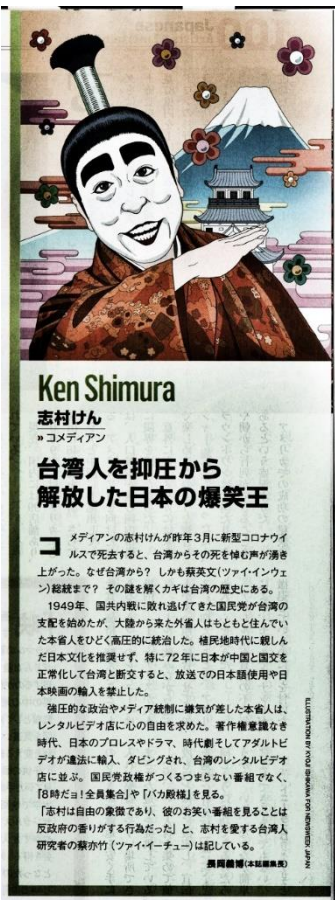
韓国のケースはいい教訓になるだろう。軍政時代の1980年に韓国で学習塾は禁止されたが、2000年に再び合法化されるまでの間、市場規模は以前より増大した。11年に再度、高額な学習塾の規制を試みたが、あまり成果を上げていない。



GLENN CARLE

元CIA職員。約20年間にわたり世界各地での諜報・工作活動に関わり、後に米国家情報会議情報分析官として米政府のテロ分析責任者を務めた。

15 NEWSWEEK 2021.8.10-17



【左】志村けんさんは、一年余り前にコロナに罹って亡くられました。日本中そして世界中が彼の詩を悼んでいます。とりわけ台湾の人たちに愛されていました。

このNEWSWEEKも通路に置いてありますので、手に取って100人を調べてみましょう!!



【上】イギリスでブレイクし、レディ・ガガのように、サー・エルトン・ジョンも一目置く日本人のミュージシャンがいるのです。少し気にかけてみませんか？



【下】ゴジラは永遠に日本が誇る世界のヒーローなのです。なぜだかわかりますか？

Godzilla

ゴジラ

「怪獣」

難題がある限りゴジラは君臨する

今年3月からアメリカをはじめ世界各地で公開された『ゴジラvsキング』は、日本生まれの怪獣ゴジラとハリウッドの怪獣キングコングが戦うモンスター映画。19年公開の『ゴジラ キング・オブ・ザ・モンスターズ』の続編で、ハリウッドが製作した4作目のゴジラ映画だ。舞台はモンスター同士の戦いで荒れ果

しい戦いが始まる——。映画の最大の見どころは、怪獣たちが派手に戦うシーン。アメリカの批評家にもおおむね好評で、日本を含めた42の国と地域で、映画興行週末ランキング1位を獲得した。それにしても、ゴジラはなぜハリウッドと世界に愛されるのか？ 米ファンサイトの運営者は「ゴジラは常に何かの問題の象徴だ。初期のゴジラはアメリカや核兵器を表現し、近年は人類と自然の共生を訴えている」と分析する。ゴジラは死なず——この世界に難題がある限り。

知久敏之(本誌記者)

体のケア	サプリメントを飲む	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶささない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事夜7杯朝3杯	下肢の強化	体を聞かない	メンタルコントロールをする	ボールを踏でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的を持つ	一言一葉しない	頭は冷静に心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	雰囲気は流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナーキャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	脚腰そらじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	速く痛差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	実行力をイメージ

現代が学べる 志成館